

口永良部島の火山活動解説資料（平成 24 年 10 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

平成 24 年 1 月 20 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2-①⑥）

新岳火口の噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が最高で火口縁上 200m まで上がりました。

・地震や微動の発生状況（図 2-②③⑦⑧）

火山性地震の月回数は 82 回（9 月：74 回）と少ない状態で経過しました。

火山性微動の継続時間の月合計は 7 分（9 月：1 分）でした。

・地殻変動の状況（図 2-④、図 3、図 4）

GPS 連続観測では、火山活動によると思われる変化は認められませんでした。



図 1 口永良部島 噴煙の状況（10 月 20 日、本村西遠望カメラによる）
白色の噴煙が最高で火口縁上 200m まで上がりました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 11 月分）は平成 24 年 12 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

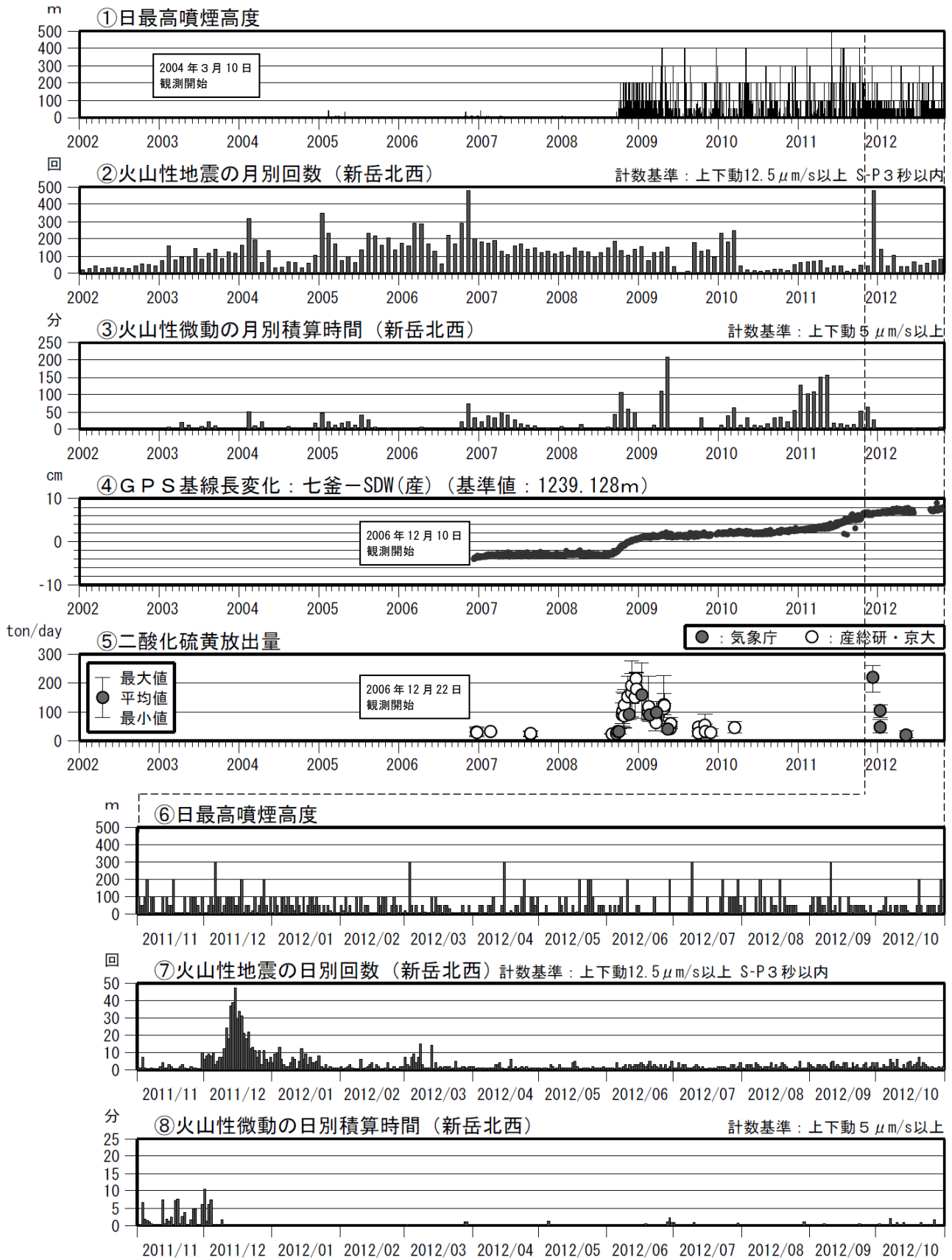


図2※ 口永良部島 火山活動経過図 (2002年1月～2012年10月)

<10月の状況>

- ・白色の噴煙が最高で火口縁上200mまで上がりました。
- ・火山性地震の月回数は82回(9月：74回)と少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動の継続時間の月合計は7分(9月：1分)でした。

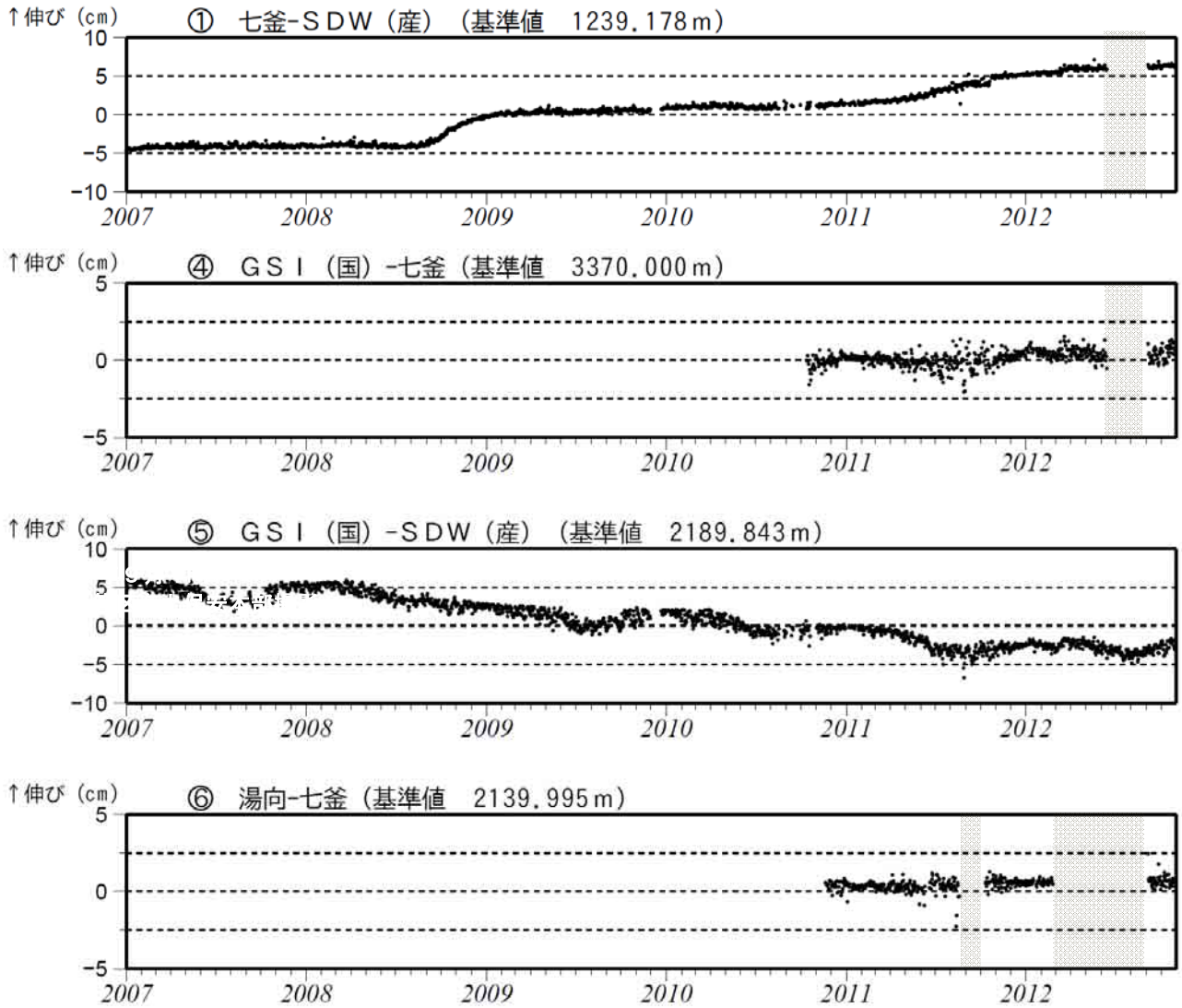


図3※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化（2007年1月～2012年10月）
GPS 連続観測では、火山活動によると思われる変化は認められませんでした。

2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
この基線は図4の①、④～⑥に対応しています。なお、②、③、⑦～⑨は観測点障害による直近データ欠測のため掲載を省略しました。また、ヘリポート観測点は現在データ蓄積中です。灰色部分は観測点障害のため欠測を表しています。

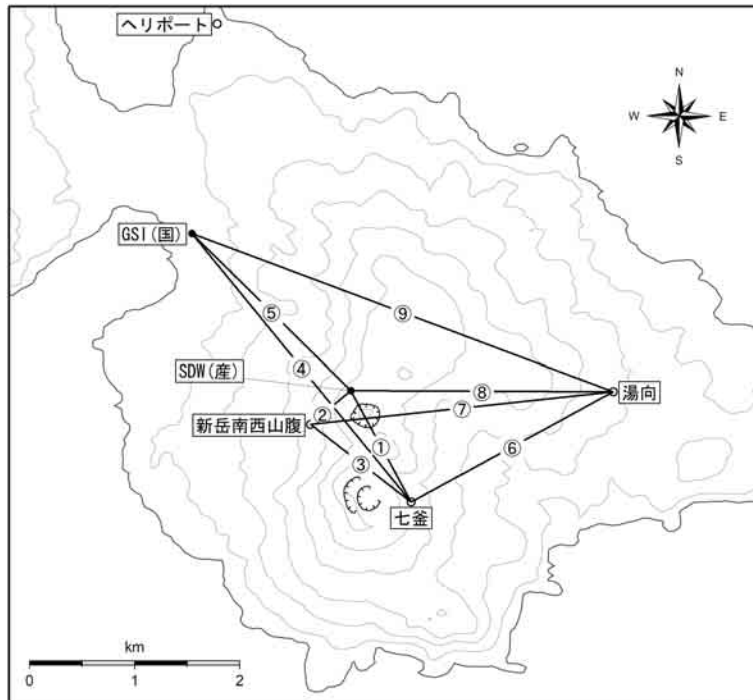


図 4 口永良部島 GPS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(産)：産業技術総合研究所

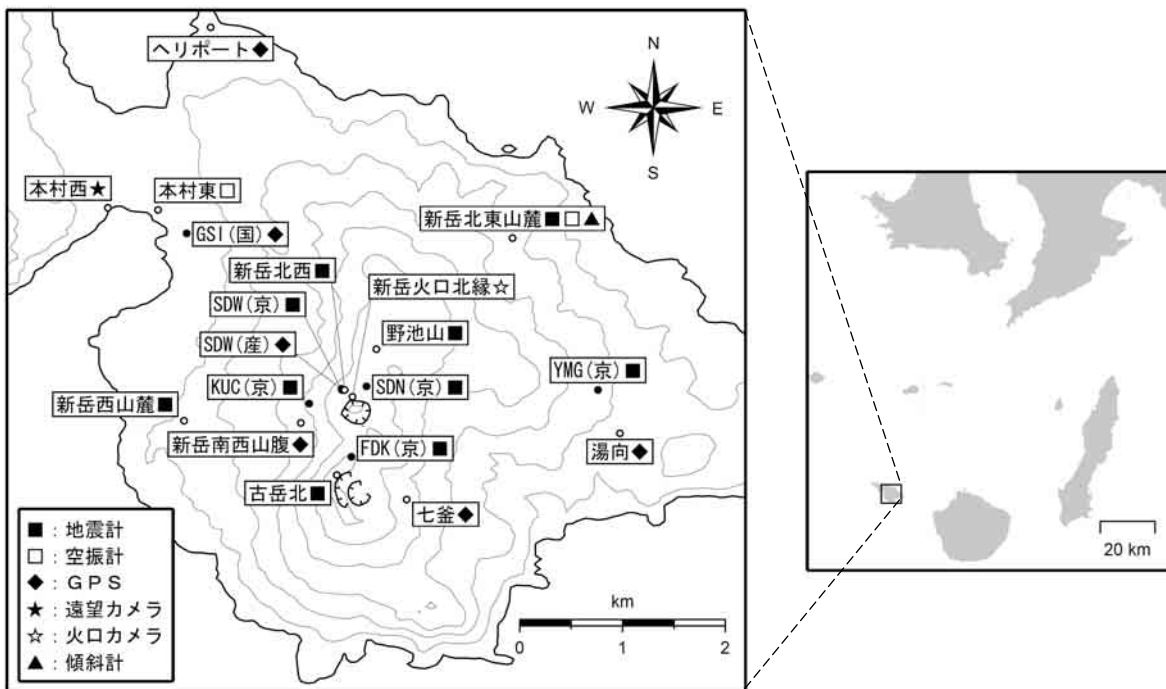


図 5 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(京)：京都大学、(産)：産業技術総合研究所